

21世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター 2008年度の活動

1. シンポジウム

1) 第9回シンポジウム

日時：2008年12月7日(日) 14:00～17:00

場所：東洋大学白山校舎 1号館3階1305教室

テーマ：ジャーナリストと心的外傷—ジャーナリストが災害や事故報道で被るストレス

企画趣旨・司会：

安藤清志(東洋大学社会学部)

報告：

福岡欣治(静岡文化芸術大学文化政策学部)

講演：

Cait McMahon(ダートセンターオーストラリア代表)

2. 講演会

日時：2009年2月28日(土) 15:00より

場所：東洋大学白山校舎6号館6101教室

講師：Miles Hewstone(University of Oxford)

テーマ：「集団間葛藤の社会心理学的メカニズム—偏見の低減に向けて—」

企画：

北村英哉(東洋大学社会学部)・熊谷智博(東北大学)

司会：

北村英哉(東洋大学社会学部)

コメンテーター：

唐沢穰(名古屋大学)

3. 研究交流会

1) 日時：2008年10月8日(水) 18:00より

場所：東洋大学雨水会館201会議室

講演者：相馬敏彦(川口短期大学)

テーマ：「二人きりの世界」は幸せをもたらすか—親密な関係における暴力の背景要因としての特別観—

2) 日時：2008年12月10日(水) 18:30より

場所：東洋大学白山校舎6号館6202教室

講演者：熊谷智博(東北大学)

テーマ：「集団間葛藤の心理学—非当事者攻撃研究について—」

4. 学会活動

Miho, HATANAKA(Rissho University), Yutaka, MATSUI(Tsukuba University). Effect of Social Support and Inhibition on Mental Health of Japanese Disaster Workers. Proceedings of the 9th Annual Conference of Society for Personality and

Social Psychology, February 8-10, 2008, in USA

畑中美穂（立正大学）・福岡欣治（静岡文化芸術大学）・小城英子（聖心女子大学）・松井豊（筑波大学）・安藤清志（東洋大学） 『ジャーナリストの惨事ストレス（8）放送ジャーナリストにおける外傷性ストレスとその関連要因』日本トラウマティック・ストレス学会第7回大会総会 2008年4月19日～20日

畑中美穂（立正大学）・福岡欣治（静岡文化芸術大学）・小城英子（聖心女子大学）・安藤清志（東洋大学）・井上果子（横浜国立大学）・板村英典（関西大学）・松井豊（筑波大学） 『ジャーナリストの惨事ストレス(10)自己開示と精神的健康との関連』 日本心理学会第72回大会 2008年9月19日～21日

Yoshiaki, IMAI(Toyo University). Message order effects, self-relevance and need for cognition in persuasion. XXIX International Congress of Psychology, Poster presentation, July 20-25, 2008 in Germany, ICC Berlin.

Kiyohiko KATAHIRA(Toyo University), CJD Support of Japan. CJDISA Meeting Agenda, July 10, 2008 in USA, Washington D.C.

片平冽彦（東洋大学） 『薬害根拠を目指して～薬害オンブズパーソン会議10年の回顧と展望』 薬害オンブズパーソン・タイアップ札幌第10回総会 2008年3月1日

片平冽彦（東洋大学）・中島晃（市民共同法律事務所） 『「薬害イレッサ事件」の検証』 日本社会薬学会第27年会 2008年9月7日

松井豊（筑波大学）・山崎達枝・丹野宏昭（筑波大学） 『2007年新潟県中越地震の被災介護施設職員のストレス反応（2）』 日本トラウマティック・ストレス学会第7回大会総会 2008年4月19日～20日

宇井美代子（東京福祉大学）・松井豊（筑波大学） 『男女平等の判断基準尺度改訂版の作成』 日本心理学会第72回大会 2008年9月19日～21日

山本由美子（東京大学）・山崎喜比古（東京大学）・片平冽彦（東洋大学）・植田宗（ヤコブ病サポートネットワーク） 『薬害クロイツフェルト・ヤコブ病患者遺族の介護体験と死別後の心理に関する研究』 日本社会医学会総会第49回 2008年7月13日

山本由美子（東京大学） 『薬害クロイツフェルト・ヤコブ病患者遺族の介護体験と死別後の心理に関する研究』 日本公衆衛生学会総会第67回総会 2008年11月7日

山崎達枝・松井豊（筑波大学）・丹野宏昭（筑波大学） 『2007年新潟県中越地震の被災介護施設職員のストレス反応（1）』 日本トラウマティック・ストレス学会第7回大会総会 2008年4月19日～20日

5. 論文

阿部美帆・今野裕之・松井豊 2008年 日誌法を用いた自尊感情の変動性と心理的不適応との関連の検討、筑波大学心理学研究, 35, pp7～16.

安藤清志 2008年3月 「外傷後の「成長」と社会」 『現代人のこころのゆくえ 2ーヒューマン・インタラクシオンの諸相ー』, 東洋大学 21世紀ヒューマン・インタラクシオン・リサーチ・センター, pp109～126.

浅井真理子・松井豊 2009年 「配偶者をがんで亡くした遺族の心理状態と対処行動の構造探索」 筑波大学心理学研究, 37, pp49～58

Asai M., Fujimori, M., Akizuki, N., Inagaki, M., Matsui, Y. & Uchitomi, Y. 2009 Psychological states and coping strategies after bereavement among the spouses of cancer patients: a qualitative study. *Psycho-Oncology*. Online

畑中美穂・福岡欣治・松井豊・安藤清志・小城英子・板村英典・井上果子 2008年 「ジャーナリストの惨事ストレスに関する探索的検討2ー放送ジャーナリスト及び管理職に対する面接調査の結果報告ー」 横浜国立大学大学教育相談・支援総合センター研究論集, 1, pp93~100.

細井洋子・鴨志田康弘 2008年 「〈犯罪被害者〉イメージの構築における現状と課題」 東洋大学 21世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター研究年報, 5, pp85~102.

細井洋子・鴨志田康弘 2008年3月 「犯罪被害者・家族支援の根本を問うー公助・共助・自助の均衡パラダイムー」 『現代人のこころのゆくえ 2ーヒューマン・インタラクションの諸相ー』 東洋大学 21世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター, pp5~43.

福岡欣治・安藤清志・松井豊・井上果子・畑中美穂・板村英典・小城英子 2008年 「ジャーナリストの惨事ストレスーDart Center 調査からみた海外でのストレス対策の動向ー」 東洋大学 21世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター研究年報, 5, pp115~129.

福岡欣治・井上果子・安藤清志・畑中美穂・松井豊・小城英子・板村英典・結城裕也 2008年 「トラウマとジャーナリズム: ジャーナリスト、編集者、管理職のためのガイド」 横浜国立大学大学教育相談・支援総合センター研究論集, 1, pp45~90.

今井芳昭 2008年 「環境配慮行動を促すための社会心理学的アプローチ」 東洋大学「エコ・フィロソフィ」研究, 第2号, pp107~128.

今井芳昭 2008年 「对人的影響における情報の提示順序に関する研究」, 平成 18-19 年度科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書.

磯部綾・久富哲兵・松井豊・宇井美代子・高橋尚也・大庭剛司・竹村和久 2009年 「意思決定における“日本版後悔・追求者尺度”作成の試み」 心理学研究, 5, pp453~458.

片平洸彦 2008年1月 「すべての薬害肝炎被害者への償いと薬害根絶を」 『月刊国民医療』No.244, 国民医療研究所, pp128~130.

片平洸彦 2008年3月 「全ての薬害肝炎被害者への償い、肝炎感染被害者の救済と薬害根絶を」 東洋大学 21世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター研究年報, 5, pp53~54.

片平洸彦 2008年3月 「タミフル薬害と国の対応の問題点」 東洋大学 21世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター研究年報, 5, pp163~169.

片平洸彦 2008年6月 「薬害イレッサ事件(2)」 『Nurse eye』Vol.21(2), 桐書房, pp82~87.

片平洸彦 2008年9月 「すべての薬害肝炎被害者への償い・恒久対策と薬害根絶を」 『高校のひろば』69, 旬報社, pp80~83.

片平洸彦 2008年10月 『Encyclopedia of Environment 環境事典』 旬報社, pp266~7, 411, 557, 626, 652~3.

片平洸彦 2008年11月 「全ての肝炎感染被害者への国民的支援と薬害根絶を 「薬害肝炎特措法」成立の意義と今後の課題」 『新医協』 第1645号, 新日本医師協会

片平洸彦 2008年 「全ての薬害肝炎被害者への償い、肝炎感染被害者の救済と薬害根絶を」 東洋大学 21世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター研究年報, 5, pp53~54.

加藤司 2008年3月 「現代青年の適応的人間関係」 『現代人のこころのゆくえ 2ーヒューマン・インタラクションの諸相ー』, 東洋大学 21世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター, pp69~91.

北村英哉 2008年3月 「就職活動と自己—M-GTAによる大学生の就職活動の様相の研究—」 『現代人のこころのゆくえ 2—ヒューマン・インタラクションの諸相—』, 東洋大学 21世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター, pp45~68.

北村英哉・佐藤史緒 2008年 「潜在測定による自己と態度の研究—Implicit Association Test 紙筆版による地域イメージの検討—」 東洋大学 21世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター研究年報, 5, pp31~36.

久保ゆかり 2008年 「語ることを通しての感情の社会化と自己の構築—幼児は園の行事における感情経験をどのように語るか—」 東洋大学 21世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター研究年報, 5, pp37~44.

松井豊 2008年3月 「惨事ストレスケアへの抵抗をめぐって」 『現代人のこころのゆくえ 2—ヒューマン・インタラクションの諸相—』, 東洋大学 21世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター, pp93~108.

松井豊 2008年 内閣府自殺対策推進室(編) 自殺対策に関する意識調査.

松井豊 2008年 「都内のひきこもりの状態にある若年者の人数推計と若年者一般との意識傾向の比較」 東京都青少年・治安対策本部(編) 実態調査から見る引きこもる若者のこころ 平成19年度若年者自立支援調査研究報告書, pp26~72.

(注:一部渡部麻美との共著)

松井豊 2009年 「ジャーナリストの惨事ストレス—記者の心身の変化に目を向ける—」 新聞研究, 691, pp71~75.

松井豊・立脇洋介・高橋幸子 2008年 「消防職員の惨事ストレス研修の試み」 筑波大学心理学研究, 36, pp19~23.

水田恵三・新井洋輔・西道実・清水裕・田中優・福岡欣治・西川正之・松井豊 2008年 「阪神・淡路大震災後の避難所におけるトラブルの時系列的変化」 筑波大学心理学研究, 35, pp17~26.

毛呂准子・松井豊 2009年 「上司による部下育成行動—研究動向と探索的検討—」 筑波大学心理学研究, 37, pp59~68.

小口孝司・花井友美 2008年 「Eメール交換経験が対人不安感の低減に及ぼす効果」 東洋大学 21世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター研究年報, 5, pp131~135.

大島尚 2008年3月 「若者の携帯メール依存は孤独感の反映か?—調査研究から見えるもの—」 『現代人のこころのゆくえ 2—ヒューマン・インタラクションの諸相—』 東洋大学 21世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター, pp127~144.

大島尚 2008年 「環境意識と生活観・自然観—アジア3国での調査結果から—」 東洋大学「エコ・フィロソフィ」研究, 1, pp.71-106.

島崎哲彦・大谷奈緒子・川島安博・守弘仁志・四方由美・高橋奈佳・川上孝之 2008年 「コミュニケーション・メディアとしての地域メディア」 東洋大学 21世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター研究年報, 5, pp55~83.

清水裕 2008年 「社会的アイデンティティの強い集団と弱い集団の特徴—自己がおかれている状況に関する認知の際—」 東洋大学 21世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター研究年報, 5, pp45~51.

清水裕・西道実・堀洋元・松井豊・元吉忠寛・竹中一平・新井洋輔・田中優・水田恵三・福岡欣治 2008年 「家庭内の防災行動に関する研究—東京都神戸の一般住民間における比較」 昭和女子大学生活心理研究所紀要, 10, pp13~21.

Ui, M., & Matsui, Y. 2008 Japanese Adults' Sex Role Attitudes and Judgment Criteria Concerning Gender Equality: The Diversity of Gender Egalitarianism. *Sex Roles.*, 58, pp412~422.

宇井美代子・松井豊・福富護・成田健一・上瀬由美子・八城薫 2008年 「成人男性の買春行動および買春許容意識の規定因の検討」 心理学研究, 79, pp215~231.

渡部麻美・松井豊 2008年 「教師の視点から見た高校生の友人関係における問題」 筑波大学心理学研究, 36, pp25~32.

山本由美子・山崎喜比古・片平冽彦・上田宗 2008年4月 「葉害ヤコブ病被害者の経験とニーズに関する調査【調査報告書】」 『ヤコブ・ネット NEWS』 Vol.14, ヤコブ病サポートネットワーク, pp3~18.

※プロジェクトに参加するメンバーは以下の通りである。

〔研究員〕

安藤清志（東洋大学社会学部教授）〔統括責任者〕
大島尚（東洋大学社会学部教授）
島崎哲彦（東洋大学社会学部教授）
黒澤香（東洋大学社会学部教授）
北村英哉（東洋大学社会学部教授）
今井芳昭（東洋大学社会学部教授）
久保ゆかり（東洋大学社会学部教授）
片平冽彦（東洋大学社会学部教授）
細井洋子（東洋大学社会学部教授）
原山哲（東洋大学社会学部教授）
片山美由紀（東洋大学社会学部准教授）
加藤司（東洋大学社会学部准教授）
関谷直也（東洋大学社会学部講師）

〔客員研究員〕

松井豊（筑波大学教授）
福岡欣治（静岡文化芸術大学准教授）
小口孝司（千葉大学准教授）
清水裕（昭和女子大学准教授）
田中淳（東京大学教授）

〔リサーチ・アシスタント〕

結城裕也（東洋大学大学院社会学研究科）
本田周二（東洋大学大学院社会学研究科）
佐藤史緒（東洋大学大学院社会学研究科）
下田俊介（東洋大学大学院社会学研究科）